



アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル 愛南町出身の kiku さんがつづるふるさとエッセイ

— あいなん音故地新 —

明日は我が身

昨年の9月、私は初めて石川県を訪れた。47都道府県制覇の旅、残すところあと7県、その中に石川県があった。金沢からレンタカーを借りて能登半島の東側を北上し、途中で西側にうつり最北端まで走った。車の中から見ても海は近く、道路より海面の方が高いんじゃないかと錯覚に陥るほどで、道沿いの民家の2階から釣りができそうやね、と笑ったけどそのすぐあとに、津波が来たら怖いね…と言った記憶がある。そこがどの町やったのかははっきりとは覚えてないけど、私が見た景色はあの日と変わってしまつとるやろう。

今回の地震で被害を大きくしたのは“建物の老朽化”やないやろか。耐震補強していれば助かったやろう命の数が一番多い気がする。愛南町も高齢化が進み、それと同時に建物の老朽化も進んでる。どうかみなさんに耐震補強を検討してほしい。そして町をあげてそれに取り組んでもらえるようお願いしたい。簡単じゃないことは承知してる。けど、検討してほしい。住み慣れた場所が安心安全であるように。

そして“明日は我が身”。地震がきたら津波が来たらどうするのか、どこに避難するのか、今一度家族と話し合っしてほしい。“津波てんでんこ”。どうか、どうかお願いします。
(テノヒラkiku)



本日！海日和！！ vol.159

「目が合った？」

海の生き物の写真を撮り始めて40年近くになる。沖縄や奄美の海もいいが、ホームグラウンドである愛南の海が一番だ。気楽に通い、身近な生き物たちが見せる何気ない姿にいやされてきた。

アオウミウシは体長3cm程の小さなウミウシだ。愛南でも普通に見ることができ、あまり魅力的な被写体とは思っていなかった。瀬ノ浜の浅瀬で見つけた時も、とりあえず写真に撮っておこうと思いカメラを構えた。

ファインダーを覗き込みながら少しずつ近づいていくと、私の気配に気付いたのか、偶然なのか、立ち上がってこちらを見ているようなポーズになった。意外な展開に夢中でシャッターを押し続けた。ウミウシには眼点と呼ばれる小さな目があるだけで、ほとんど視力はない。私を見るために立ち上がったわけではないが、頭にあ



【アオウミウシ】

る二つの黒い斑点が目のように見えたため、こちらを見ているような錯覚に陥ったのだろう。その後、アオウミウシは何事もなかったように去っていった。

一瞬の出来事だったが、ウミウシと目が合ったような気がした。こんな小さな出会いも海に潜る楽しみの一つである。

(撮影地：瀬ノ浜)

愛南サンゴを守る会 西尾知照 ともてる